

第3回宇宙交通管理に関する関係府省等タスクフォース大臣会合の実施結果について

- 趣 旨：宇宙交通管理に関する関係府省庁等の取組を推進するため、最近の状況変化や関係府省庁等の取組を共有
- 日時・場所：令和7年3月28日（金）17:10～18:00、4号館4階共用第4特別会議室
- 参加者：城内大臣（座長）、関係各省の副大臣又は政務官、JAXA山川理事長、アストロスケール岡田CEO
- 議 題
 - ① 宇宙交通管理に関する最近の状況変化
 - ② 内閣府、文部科学省、防衛省、JAXA、アストロスケールの取組
 - ③ 関係府省等の取組
 - ④ 国連宇宙空間平和利用委員会本委員会への対応
- 内閣府からは、宇宙交通管理に関する最近の状況変化について説明するとともに、本年2月に制定された「人工衛星等との衝突防止に係るガイドライン」について報告した。
参考資料1：宇宙交通管理に関する最近の取組
- 関係府省やJAXA、アストロスケールから、それぞれ実施している取組について報告いただき、意見交換を行った。
参考資料2：軌道上サービスのグローバルリーダーを目指して
- 本年6月下旬に開催される国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）本委員会における我が国の対応方針を提示した。
参考資料3：国連宇宙空間平和利用委員会本委員会への対応について
- 会合の終わりに、城内大臣から締めくくり発言があった。
（次スライド参照）



締めくくり発言をする城内大臣

城内大臣による締めくり発言（抜粋）

- 宇宙空間が混雑化する中、地球周回軌道上での衝突防止や宇宙状況把握、デブリの抑制などの軌道利用に関するルールにつきまして、日本の実践的取組を国際社会に発信し、ルールづくりに関する国際的な議論に積極的に貢献することは極めて重要であります。
- 先ほど事務局から説明があったと思いますが、本年6月25日からは、ウィーンにおいて、国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）本委員会が開催されます。宇宙交通管理に関する我が国の立場を積極的に発信いたしまして、有志国による議論を醸成する貴重な機会であると捉えております。
- また、本日の配付資料4※を御覧いただければと思いますが、一番下に記載のとおり、6月の委員会では、我が国として「国内の体系的な制度整備と国際協力により、技術的能力に裏打ちされた、抜けのない宇宙デブリ対策の施策体系を構築していることを紹介して、持続可能な宇宙環境の維持に資する好事例を国際社会に提供することにより、宇宙交通管理の確立に貢献する」、このような方針で対応していきたいと考えております。この委員会の場をしっかりと活用させていただきまして、我が国の、この分野でのプレゼンスを一層高めてまいります。